

JENESYS2022 日 ASEAN 高校生オンライン交流の記録 (被災地復興支援)

1. オンライン交流概要

【目的】東日本大震災からの復興支援の取り組みについて ASEAN 諸国および東ティモールの青少年の理解を促進し、復興状況の正しい把握と風評被害の払拭に関する対外発信を強化し、日本と ASEAN 青年の友好を促進することを主目的に、8日間（2022年9月12日～22日の内）のプログラムを実施しました。

【参加者】ASEAN9か国（注）及び東ティモールの高校生等 計52名

（注）ASEAN9か国：インドネシア、カンボジア、タイ、フィリピン、ブルネイ、ベトナム、マレーシア、ミャンマー、ラオス（9か国）

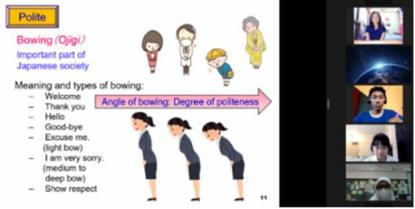
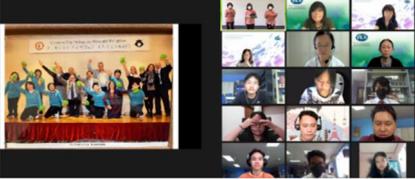
【訪問地】兵庫県、宮城県、岩手県、福島県

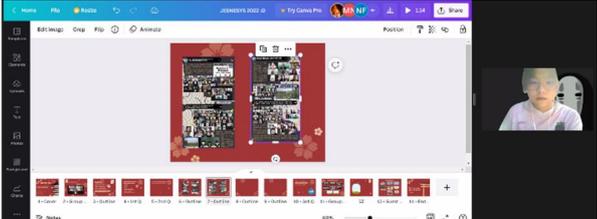
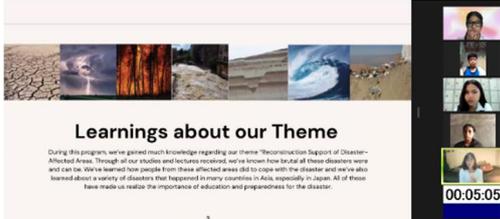
【日程】 このプログラムは、他のプログラムと一部合同で実施しました。

日程	内容	参加者の質問・反応
1日目 9月12日	<p>【オリエンテーション】</p> <p>【講義・質疑応答】「日本の社会と文化」 講師：JICE 日本理解講義講師 アンドラディ久美氏</p> <p>【参加者間交流】自己紹介・意見交換</p>	参加者は様々な日本の文化や習慣等について自国と比較しながら興味深く聴講していました。「日本の教育システムは、教育の質に注力するものですか又は学歴重視ですか」という質問がありました。
2日目 9月13日	<p>【講義・質疑応答】</p> <p>「アジアの災害と復興支援」 講師：兵庫県立大学客員教授 諏訪清二氏</p>	自然災害や防災について、改めて認識した参加者が多く、興味深く説明を聞き事例の理解を深めていました。「明日災害が起こると分かった時に、今何をすべきか5点考ましよう」という講師の課題に対し、参加者から「避難経路を確保する」「住民に知らせて心構えをさせる」「食料や水を備える」「行政に知らせて指示を仰ぐ」「住民情報を事前に確保しておく」などの回答がありました。
3日目 9月14日	<p>【学校交流】宮城県志津川高等学校</p> <p>① 志津川高校生徒よる地域・学校説明 ② 校内ツアー、部活動説明 ③ 少人数グループ別での意見交換（学校生活、趣味、各国文化等）</p>	日本の高校生活には関心が高く、日本人学生と積極的に交流していました。防災クラブの存在に驚き、改めて自然災害に対する備えを重要視したようでした。「防災クラブの他にユニークなクラブはありますか」という質問があり、「郷土芸能愛好会」が紹介されました。

<p>4 日目 9 月 15 日</p>	<p>【交流・意見交換】 宮城県気仙沼高等学校の語り部生徒による活動紹介</p> <p>① 被災地バーチャル語り部ツアー ② 少人数グループ別での意見交換（語り部活動や各国の災害等）</p>	<p>バーチャルツアーでは、震災当日や直後の悲惨な写真を見て驚いている様子でした。「語り部として、見たこと経験したことを自分たちの言葉で次の世代に伝え、同じことを二度と繰り返してはならない」という語り部生徒たちの強い想いに参加者は共感していました。語り部になるための準備や研修方法についての質問がありました。</p>
<p>5 日目 9 月 17 日</p>	<p>【ホームビジット】 岩手県陸前高田市</p> <p>① 地域紹介 ② ホームビジット</p>	<p>2011 年の陸前高田市での震災被害について詳しく知り、津波の恐ろしさを改めて認識した様子でした。また、ホストファミリーたちの元気で前向きな様子に感心していました。ホストファミリーとの楽しい交流後、「実際に訪れてみたい」という声が多数ありました。</p>
<p>5 日目 2022 年 9 月 17 日</p>	<p>【交流・日本文化体験】</p> <p>① アップルガールズ^(注)の活動説明 ② 「陸前高田松の木体操」の説明、ダンス体験</p> <p><small>(注) アップルガールズ：陸前高田市の米崎地区の女性を中心に、震災後、「落ち込んでばかりではなく、何かできることを」という思いから結成し、様々な活動を続けている団体</small></p>	<p>ASEAN でも人気のアニメ「アンパンマン」の作者やなせたかし氏が、「陸前高田の松の木」を作詞作曲した経緯について関心高く聞いていました。元気一杯のアップルガールズのメンバーと画面越しで一緒にダンスを楽しんでいました。</p>
<p>6 日目 2022 年 9 月 20 日 福島県双葉郡</p>	<p>【交流・意見交換】</p> <p>① 福島県双葉町と Rurio^(注)の紹介・質疑応答 ③ ディスカッション ③ まとめ</p> <p><small>(注) ※Rurio (ルリヲ)：地域密着型の街づくりを核とした事業展開を目指す東北大学学生（留学生含む）による団体</small></p>	<p>参加者と年齢が近く、勉強初め環境・地域問題にも意識の高い留学生含む学生団体と意見交換をし、大いに刺激を受けていました。日本滞在のメリット、日本で驚いた事、お勧めの日本料理、気に入っている日本語、留学動機や手続方法など様々な質問に日本人大学生から丁寧な回答があり、参加者は日本の魅力をさらに感じた様子でした。</p>
<p>7 日目 2022 年 9 月 21 日</p>	<p>【ワークショップ】</p> <p>① プログラムの振り返り ② 発表準備</p>	<p>プログラムから得た学びを参加者間で共有し、グループ毎に協力して報告会での発表準備を行っていました。</p>
<p>8 日目 2022 年 9 月 22 日</p>	<p>【報告会】</p> <p>① 参加者による発表 ② 講評</p> <p>株式会社 mint ピースツアーガイド 福原慎太郎氏</p>	<p>テーマに沿って、プログラム成果と今後の活動について発表を行いました。</p>

2. 記録写真

	
<p>2022年9月12日【講義】「日本の社会と文化」</p>	<p>2022年9月12日 講師と一緒に記念撮影</p>
	
<p>2022年9月13日【講義】 「アジアの災害と復興支援」</p>	<p>2022年9月13日 講師と一緒に記念撮影</p>
	
<p>2022年9月14日【学校交流】 宮城県志津川高等学校の学生による学校紹介</p>	<p>2022年9月14日【学校交流】 宮城県志津川高等学校校内ツアー・部活紹介</p>
	
<p>2022年9月15日【交流・意見交換】 被災地バーチャル語り部ツアー</p>	<p>2022年9月15日【交流・意見交換】 宮城県気仙沼高等学校の語り部生徒との交流</p>
	
<p>2022年9月17日【ホームビジット】 和室をバーチャル視察（岩手県陸前高田市）</p>	<p>2022年9月17日【ホームビジット】 リンゴ農家の収穫の様子（岩手県陸前高田市）</p>
	
<p>2022年9月17日【日本文化体験】陸前高田市の活性化を図るアップルガールズ活動紹介</p>	<p>2022年9月17日【日本文化体験】アップルガールズと「陸前高田松の木体操」（岩手県）</p>

	
<p>2022年9月20日【意見交換】 東北大学学生等による街作り団体 Rurio 紹介</p>	<p>2022年9月20日【意見交換】 Rurio の海外留学生を交えたディスカッション</p>
	
<p>2022年9月21日【ワークショップ】発表準備</p>	<p>2022年9月22日【報告会】成果発表</p>
	
<p>2022年9月22日【報告会】成果発表</p>	<p>2022年9月22日【報告会】記念撮影</p>

3. 参加者の感想（抜粋）

◆ ブルネイ 高校生

一番印象に残っているのは、ホームビジットです。リンゴ農家であるホストファミリーがこのプログラムを通じて世界中の人たちとのつながりがより深まったと、「(届きそうで) あなたの国までリンゴを投げて差し上げたいわ」と冗談を仰っていたのが強く印象に残っています。

◆ カンボジア 高校生

この JENESYS オンライン交流プログラムの最大の魅力は、まるで日本に実際訪問したような感覚になれるところです。いつも楽し参加でき、多くの喜びと素晴らしい経験をもたらしてくれました。

◆ ベトナム 高校生

日本やアジアの人々と交流し、彼らの生き立ちや文化を知る機会を得ることができました。オンラインでダンスまで教えて頂きました。東日本大震災で日本が受けた災禍を聞かされたときはショックでしたが震災後の日本の復興の様子を知ることができました。また、災害の種類やその対策について勉強することができたことは、大きな学びであり、私の視野が広がりました。

4. 受入れ側の感想（抜粋）

◆ 交流団体

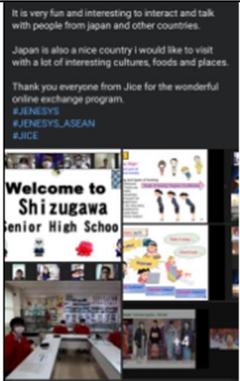
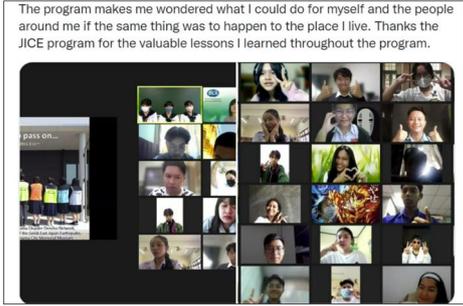
テクノロジーによって離れていても繋がれるということに感動し、プログラムを通じてつながり合い、話し合えることが素晴らしいと思いました。また、このような取り組みは、相互理解を深め、日本だけで

なく世界を動かす動機になるのだと感じました。高校生に限らず、より多様なバックグラウンドを持つ参加者を集め、同じようなイベントができれば参加する人も主催する私たちにとっても有意義であると思います。大学生や社会人などを対象にしたイベントも今後行っていききたいと思います。

◆ 協力団体

オンラインでのホームビジットやアップルガールズとの交流を通じて、陸前高田のこと、震災のことなどを多くの方に知っていただくのは、素晴らしい機会だと思います。

5. 参加者の対外発信 報道記事等 (抜粋)

	
<p>2022年9月13日 (Facebook) 諏訪清二氏から、アジアの災害・復興支援についてお話しいただきました。ASEAN各国の高校生は災害への備えの大切さを学びました。より多くの備えが被害を少なくします。そして、私たちが知っておくべき3つのスキルは1.脅威を知ること、2.災難に備える、3.危機の中でどのように答えるかを学ぶ、ということです。</p>	<p>2022年9月13日 (Facebook) オンライン交流プログラム2日目、兵庫県立大学の諏訪清二教授による「アジアの災害と復興支援」についての講義が行われ、多くの学びを得ることができました。</p>
	
<p>2022年9月20日 (Facebook) 日本や他国の人々と交流することはとても楽しいことです。文化や食べ物、観光地など興味深いものがたくさんある日本はいつか行ってみたい素敵な国です。素晴らしいオンライン交流プログラムをありがとうございました。</p>	<p>2022年9月22日 (Facebook) 日本がどのように震災から復興したかを知るとはとても興味深いことでした。中でも日本人生徒が参加する防災クラブの活動は興味深かったです。日本人生徒や日本で学ぶ留学生との交流ではお互いの興味を知ることができました。</p>

<p>2022年9月21日ブルネイ教育省HP プログラム中の交流について掲載</p>	<p>2022年9月21日 Borneo Bulletin 新聞 プログラムの報告会の様子について掲載</p>

6. 報告会での発表内容（抜粋）

<h3>グループ 1</h3>		
<p>■ プログラムに参加して学んだこと。 今回のプログラムでは、「被災地の復興支援」というテーマについて、多くの知識を得ることができました。今回の研修や講義を通して、私たちは災害がいかに残酷なものであるかを知り、またそのような災害が起こりうるものであることも知りました。また、アジア各国、特に日本で起きた様々な災害について学びました。これらのことから、私たちは災害に対する教育や備えの重要性を認識しました。</p>		
<h3>グループ 2</h3>		
<p>■ このプログラム中に学んだことをいかに活用することができるか。 防災に関わる情報を拡散するための調査活動、フォトエッセイや記事等での喚起プログラムを提案し、すべての人、特に学生等に起こりうる災害への備えがいかに大切であることを伝えていきたいと思えます。特に幼い子供たちにも災害時の備えを教えることで、誤解を防ぎ、犠牲を減らすことができると思えます。</p>		
<h3>グループ 3</h3>		



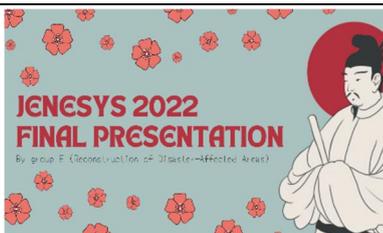
- プログラムを通じて学んだ事を活かすために、私達に出来ること。
本プログラムでの学びは、2~4世紀ごとに起こる「ビッグワン」のような大規模地震に備えることに役立ちます。というのも、西フィリピンバレー断層系はすぐにも活性化したり、移動したりする可能性があるという調査研究があるからです。私たちはその災害への備え、対応、管理を強化しながら長い間準備をしています。

グループ 4



- プログラムで学んだこと、発見したことを他のメンバーと共に活用するために出来ること。
 1. 自然災害を生き抜くために肝要な情報と、防災準備に欠かすことのできない知識を教えてくださいました。
 2. 防災学習アドバイザーの諏訪清二氏にレクチャーして頂き、その中で（災害）に対する我々の備えについて学ぶことが出来ました。
 3. （災害）とは自然現象でありそれを防ぐことはできないが、どこで発生し、どの程度の被害が出るかを調査することは可能です。それによって、私たちは必要最小限のものを準備し、被害を減らすことが出来ると思います。

グループ 5



- プログラムに参加して学んだこと。
このプログラムを通じて、私たちは自然災害がいかに悲惨なものであるかということをより深く認識するようになりました。自然災害が起きたら、精神的なサポートやお金や物資の寄付、さらには被災地に行って再建を手伝うなど、できる限りの手助けをするべきだと思います。また、防災に関する情報を得ることで、災害に備えることができますし、友人や家族にこのことを広めることもできます。

実施団体名：一般財団法人日本国際協力センター（JICE）